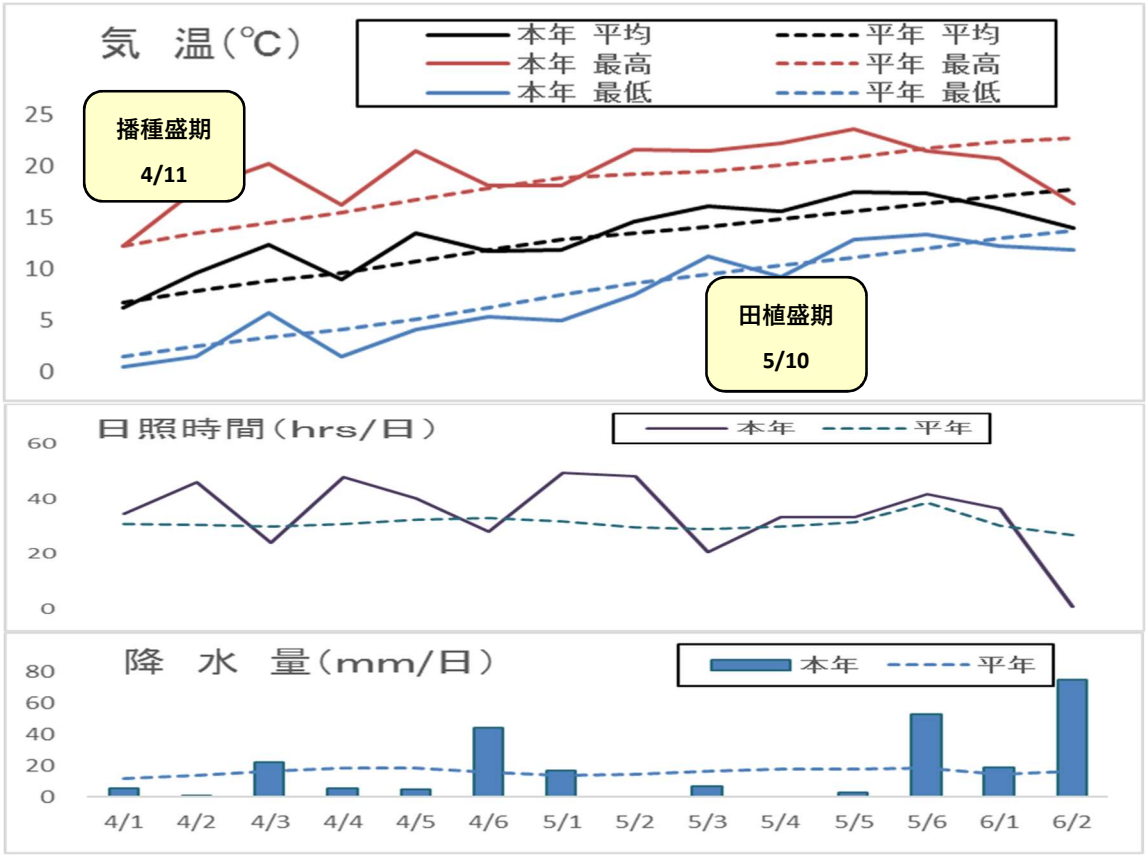
稲作情報２号

令和４年６月14日
JA全農みやぎ

～６月上旬の低温・寡照で生育が抑制　適切な水管理で生育の確保を～

１　令和４年の気象（古川アメダス）



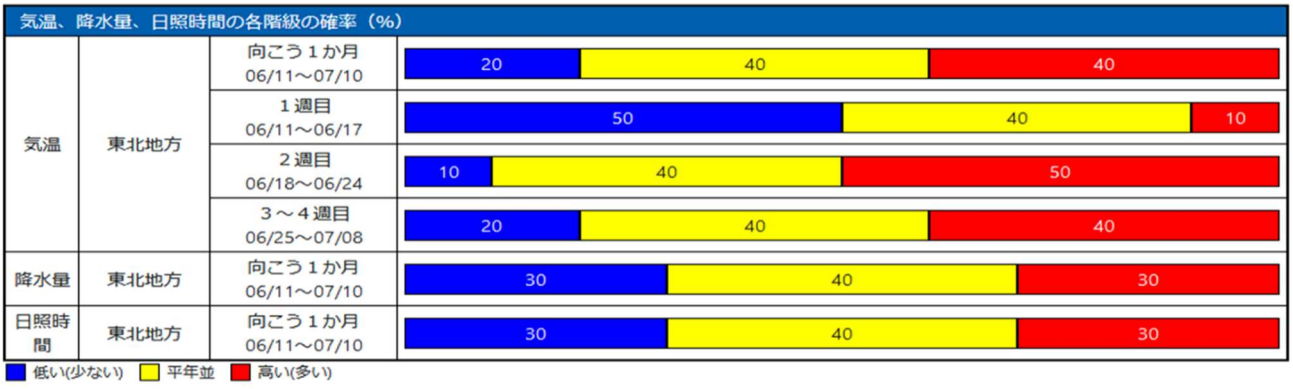
◆6月9日発表　東北地方の1か月予報（6月11日～7月10日までの天候見通し）【気象庁ホームページより】

・平年と同様に曇りや雨の日が多い。１週目（6/11～17）は気温が低く，２週目（6/18～24）はかなり高くなる可能性がある。気温の変動が大きい見込み。

・向こう１か月の気温は，高い若しくは平年並みの確率 40%，低い確率 20%。

・降水量は，多い若しくは少ない確率 30%，平年並みの確率 40%。

・日照時間は，多い若しくは少ない確率 30%，平年並みの確率 40%。



２　生育状況（６月１０日調査結果）

（１）作況試験　５月 10 日植え　ひとめぼれ（宮城県古川農業試験場）

・草丈は，25.0cm で平年比 96%である。
・茎数は，㎡当たり 278 本で平年比 98%である。
・葉色（葉緑素計の測定値）は，38.5 で平年よりやや低い。
・生育は，概ね平年並み～やや停滞していると考えられる。

移植日	草丈		茎数		葉色	
	本年（cm）	平年比（%）	本年（本/㎡）	平年比（%）	本年（GM値）	平年差（GM値）
5月10日	25.0	96	278	98	38.5	▲ 2.5

（２）県内品種別（県農業改良普及センター）

・草丈は 26～27cm 程度で，平年比 91～97%である。
・茎数は㎡当たり 170 本前後で，平年比 68～70%である。
・葉色は 33 程度で，平年差-3.8～-6.0 で平年より低い。

●古川農業試験場の「作況試験」やＪＡの「展示ほ」における調査結果（データ略）から推察すると，５月中旬移植までは５月中の高温傾向によって生育量はある程度確保されているが，下旬移植では６月に入ってからの低温・寡照によって生育（分げつ）が停滞傾向にある。

品種名	草丈		茎数		葉色	
	本年（cm）	平年比（%）	本年（本/㎡）	平年比（%）	本年（GM値）	平年差（GM値）
ひとめぼれ	26.2	91	170	70	33.3	▲ 6.0
ササニシキ	27.1	97	168	68	33.7	▲ 3.8

３　今後の管理

（１） 水管理

・６月上旬の低温・寡照によって，生育が抑制されていると推察される。特に，５月下旬以降に移植したほ場では，抑制の程度が強い傾向にある。
・**分げつが平年より少ないほ場では，低温時には水深 5～6cm の深水，それ以外は水深 2～3cm の浅水として，水温・地温の上昇を図り，生育（分げつ）の確保に努める。**
・**稲わらなど，未熟有機物が多く施用されているほ場では，硫化水素などの有害なガスが発生しやすい。特に，まとまった降水により長期間にわたって湛水状態にあるほ場では，その傾向が強いので，一時落水して酸素を供給するとともにガス抜きを図る。その後は，浅水と自然落水の繰り返しによる間断かん水を行う。**

（２） 病害虫防除【宮城県　農業・園芸総合研究所，病害虫防除所ホームページより】

① いもち病

・６月 10 日の調査時点でも，残苗が放置されているほ場が散見される。病害虫防除所の巡回調査によれば，まだ残苗での発病は確認されていないが，本田での発生源になるので，速やかに処分する。

・「葉いもちの感染好適条件の出現状況（ＢＬＡＳＴＡＭ）」による推定では，６月８～９日にかけて準好適条件２（葉面湿潤時間のみ要件を満たす）が県内広域で出現した（下図）。
・曇雨天の続く日が多くなるので，箱施用剤による予防防除を行っていない場合は，水面施用剤を防除適期（６月中～下旬）に散布する。

日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	大衡	鹿島台	石巻	女川	新川	塩釜	仙台	白石	蔵王	亘理	丸森
6/8	△	－	△	△	△	－	△	△	－	－	－	△	－	－	△	△	△	△
6/9	△	－	△	△	－	－	－	－	－	－	－	△	－	－	△	－	△	△

② 斑点米カメムシ類
・畦畔や雑草地・牧草地等のイネ科雑草は，斑点米カメムシ類の増殖源となる。
・計画的に草刈りを行い，カメムシ類の増殖を抑制する。
・水田内にイヌホタルイやノビエ等が多く残草すると，アカスジカスミカメが侵入・増殖して被害が助長される傾向にある。残草が目立つ場合は，中期・後期除草剤で追加防除を実施する。
◆大型の斑点米カメムシ類「クモヘリカメムシ」：昨年の「稲作情報第２号」でも紹介したが，県南部から北部でも発生が確認されている（下図●印）。針葉樹林で越冬することが確認されている。今後の発生拡大に注意する（大型のカメムシ類は，籾の内外頴のどの部分からでも貫通して吸汁する）。

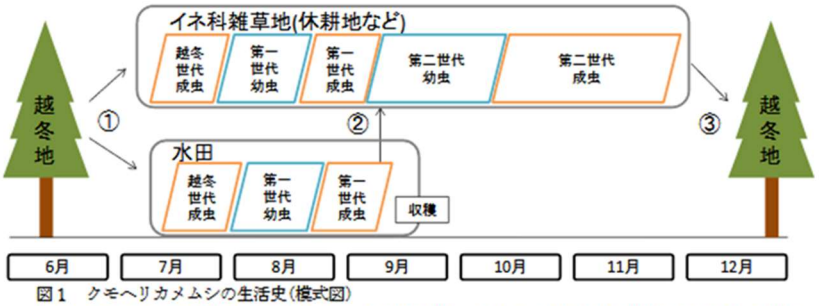


図１　クモヘリカメムシの生活史(模式図)
注１）①越冬地からの移動　②収穫によるイネ科雑草地への移動　③イネ科雑草地から越冬地への移動
注２）越冬世代成虫はヒノキなどの樹上(長谷川, 1976)，常緑樹の葉間(名和, 1932)で越冬する。

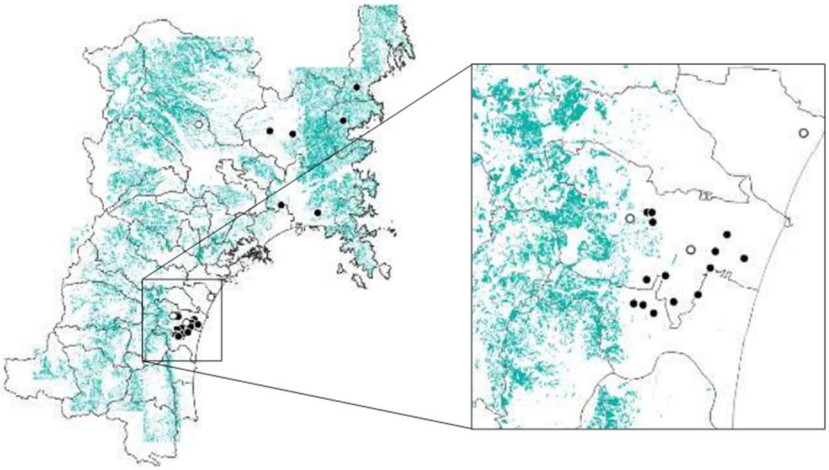


図１　フェロモントラップ設置地点と捕獲の有無（令和元年～2 年）
注 1）●：捕獲あり，○：捕獲なし
注 2）水色の部分は針葉樹林を示す